

## 令和4年度第2回埼玉県立近代美術館協議会会議録（抄録）

- 1 開催日 令和5年3月9日（木）
- 2 時間 午後2時00分～午後4時00分
- 3 場所 埼玉県立近代美術館2階講堂
- 4 出席委員 松岡滋 勝山寛美 岡野啓子 青木聖吾 井口壽乃 近藤博英  
關谷宏之 三上豊 山田志麻子
- 5 欠席委員 下野戸陽子 相馬千秋、樋口昌樹
- 6 事務局出席者 館長 建畠哲  
副館長 中村幸太郎  
教育主幹 芋川修  
学芸主幹 平野到  
担当課長 田中孝佳 平井良子  
学芸員 吉岡知子
- 7 教育局出席者 文化資源課 主事 秋葉尚耶
- 8 進行の概要
  - (1) 開会
  - (2) 館代表者挨拶（建畠館長）
  - (3) 会議録署名委員指名  
会長から署名委員として三上委員、山田委員が指名された。

## 9 議事の内容と質疑応答

### (1) 報告事項・意見

#### ア 令和4年度事業報告

事務局から会議資料及び映像を使用して、常設展示事業、企画展示事業、美術作品収集事業、一般向け普及事業、美術館の利用促進事業、子供向け事業、学校との連携、ボランティア活動、「椅子」の有効活用、一般展示室の利用状況、入館者数、博物館評価について報告を行った。

#### 【主な質疑応答】

委員 MOMASコレクション第4期で奥原晴湖の特集に加え、セレクションの中で女性作家コーナーも設けているが、たまたま女性作家が中心になったのか、女性作家を集めて展示しようとしたのか教えてほしい。

事務局 担当者の考えによるものである。収蔵品の中で女性作家の割合が少ないことに着眼し、ちょうど企画展を開催している戸谷成雄氏は、70年代の男性の作家なので、同時代的な女性作家の収蔵作品を集めるとどうなるかという視点も含めて展示した。

委員 奥原晴湖の作品をまとめて拝見できて大変うれしかった。常設展の倉田白羊の展示されている作品のなかに外部から借用している作品があるが、これは特別なことなのか。

事務局 常設展も収蔵品だけではなく、収蔵品に関連付けて効果的に展示できるような外部の作品があれば、予算の上限はあるが、時々お借りして展示することはある。

委員 展示中の『方寸』の原本は貴重だが、復刻版が出ているものがある。できれば触ってページをめくってみたいと思う。美術館ではケースに入っている資料が圧倒的に多く、手に取って見られるものがあればありがたいと思う。

事務局 復刻版は当館が所蔵しているので、今後考えていきたいと思う。

委員 企画展示で、田中保の「シアトル→パリ」というのは、とても見ごたえがあり、研究成果が出ていて、非常に勉強させていただいた良い展示だったと思う。

「桃源郷通行許可証」は、アンケートでいろいろ意見はあったと思うが、とある大学の学生がレポートを書くため展覧会を見てきたところ、最初の斎藤豊作を対照する方（佐野陽一氏）や松本陽子氏あたりのレポートが多かったと聞いた。私もトークイベントを聞き、松本陽子氏が菱田春草を取り上げたのはどうしてなのか質問しようと思ったが、質問はしなかった。腑に落ちなかったが、対話なら対話ということなのかと思った。

戸谷成雄氏の展示を先日拝見した。図録に載っている70年代後半から80年代の中頃にかけての作品はほとんど残っていないと思う。作家の意向が強いと思うが、図録を見ればそういう仕事をしていたのかと分かる。初期の人体像を見られたのは良かったが、抜けている部分があり、あれ？という感じがした。あと、キャプションがなかったが、あれは戸谷氏の意向だったのか。

事務局 担当者はキャプションを考えていたが、できるだけ無駄な表示を出したくないという作者の御意向を踏まえて、キャプションを掲示しなかった。

委員 会場の配置図も少し見にくくて、一般の方々からするとアタリがつけにくいかと感じた。これは細かなことだが、「ポンペイ」という重要な作品が今回展示されている。写真は山本糾氏が撮っているが、データの74年と87年の間にスラッシュが入っていて、この意味は何なのかどこにも記載がない。74年に発表され87年に再制作されているわけだが、写真も87年の写真なのか、74年の写真なのかがわからない。

これは戸谷成雄氏の作品中でも重要なものだと思う。データを見ると、一体どちらの写真なのかということがわからない。

事務局 まず、会場の配置図がわかりにくいというご指摘について、少し検討させていただきます。

年代に関しては、確かに制作した年なのか、再制作した年なのか、撮影した年なのかが明快にわかるように表現すべきだと思います。ご指摘の点について検討させていただきます。

委員 私は元教員であり、14ページの7番の学校との連携というところに興味がある。今は、家庭教育関連の協議会に所属している。家庭教育の支援をしている方々が活動するにあたって、読み聞かせや身体表現には興味があるが、美術関係のものについては、全く志向や興味が向いていない。例えば、アドバイザーは大人であるが、その方々たちが美術館に来て研修を受けることができるのか、それとも、各支部で美術館が持っているノウハウについての出前授業をお願いできるのか。また、そのような県民からの要望があるのかどうか、ということを知りたい。

学校では放課後子供教室、学校以外では子供食堂などで、多様な方に来ていただき、例えば財務省に来てもらいマネー講座をスポットでやっていただく。そういうところにも、ニーズがあるのではないかと感じている。

そういった問い合わせもあるのかどうかも含めて、今後の要望ではあるが、門戸を開いていただけるとありがたいと思う。

事務局 様々なご提案に感謝する。当館では、子供向け、あるいは親子が参加できる「MOMASの扉」というプログラムを実施している。11ページに記載しているが、土曜日を主体として開催している。このプログラムに、親子で参加できるものもあるので、活用していただくのが一つのアイデアかと思う。

また、学校の教員に向けた教員美術講座というものも開催している。14ページに記載しているが、どういう風に美術館を活用できるかということについて、講師を招き様々なプログラムを実施している。そういうところに参加していただくと、色々な繋がりができるかも知れない。

委員 子育て支援は、教育ではなく末端のボランティアの方たちがやっているため、もしかしたら福祉関係の方からアプローチがあるかもしれない。

イ 令和5年度事業計画

事務局から会議資料及び映像を使用して、常設展示事業、企画展示事業、美術作品収集事業、普及事業、美術館の利用促進事業、子供向け事業、学校との連携、ボランティア活動、「椅子」の有効活用について報告を行った。

【主な質疑応答】

委員 例えば29ページは、学校「等」との連携としていただけると、各団体等も入っていけるかと考える。

事務局 ご意見として承る。

委員 埼玉県立近代美術館だけではないが、昨年、美連協（美術館連絡協議会）がなくなった。美連協は、共同プロジェクトがあった場合には、学芸員が集まって共催できるということをやっていたと思うが、そういった声掛けはどうなったのか。

館長 先日、美連協の総会があった。解散するかどうかなどの話もあり、スポンサーがなくなって読売新聞だけになったので、大幅に縮小するか検討していたが、今までのような後援事業などについては、何かの形で継続できないかということを探しているというふうに聞いている。

我々としては、本来なら美連協が入って協力して行う形が良いが、美連協がなくなると今までのような形が取れなくなる。

全国美術館会議において、美連協の機能を請け負ってもらえないかと提案があったが、スタッフが足りないため財政的に請け負えないということになった。我々としてはとても困ってはいるが、美連協に代わる体制を生み出せないで、美連協は解散しないで、機能を持ってくれないかと提案しているところである。

委員 企画展「イン・ビトウィーン」について、これはさいたま国際芸術祭の時に開催されると聞いた。「目[mé]」というグループがディレクターをしているが、そういう方たちと接触しているのか。

事務局 何度か建畠館長を含めてミーティングをしている。「目[mé]」のメンバーは、自分たちが企画する会場のプランで多忙のようだが、我々から提案している連携は、折角同じ時期に展覧会を開催しているので、できるだけ各会場の人が回遊するような仕組みとなればということである。

例えば関連イベントを同じ日に開催して、できるだけお互いに周知しあうというような方法を検討している。

委員 その中で、先ほどジョナス・メカスの話が出たが、メカスは最近若い人に注目されて驚いている。先日の東大の上映会も、あっという間に定員がいっぱいになっていた。メカス人気もあるのかと思った。

事務局 私も以前から何本か映画を見て非常に興味を持った作家である。当館では映像作品は収蔵していないが、写真作品を収蔵している。それらを活用して、この展覧会「イン・ビトウィーン展」のテーマに関わることはできると考えている。人気の理由は、最近亡くなって再評価されていることが一つあると思うが、日本で熱心にメカスとの関係を持ってきた方々の地道な努力が継続されてきたのだろうと思う。

委員 今、神奈川県立近代美術館で個展を開催されている横尾龍彦氏について、広報面で、例えば一般の方が、神奈川県立近代美術館で展示をしているから行ってみようと思ったときに、埼玉でも開催することがわからない。

(埼玉から) 逗子まで行くと、往復の電車料金、入場料だけでも5000円近くかかってしまう。

最初に、三つの美術館に巡回するのだという広報を埼玉県立近代美術館や他館で発信してもらえないのか。

事務局 広報することは可能だと思う。それぞれがお客さんを取り合うという時代ではないし、お客さんがどういうところに行って展覧会を見ることができるかというのは考えなくてはならないことだと思う。

ただ、戸谷成雄展でもそうだが、展示する美術館によって作品内容が変わることがある。そのあたりは巡回展の情報を出すと同時に紐づけて情報を広報していく必要があると考える。

委員 「ボイス+パレルモ」展も美術館ごとに比較してご覧になった方が多くいて、少し驚いた。

館長 チラシやポスターでは地方のどこで巡回しているかを書いていない。おっしゃるとおり、開催館である我々は、他館の情報をチラシやポスターに掲載しないので、巡回展のことを考えたら確かに情報提供をしておくべきだと思う。

委員 今年、さいたま国際芸術祭で、具体的にどういった連携をしていくのか。

事務局 既に何回かさいたま国際芸術祭側と話をしているが、まずは同時期に展覧会を開催するので、そこで両方を見てもらって、人の流れをできるだけ作っていきたいと考えている。

これまでもさいたま国際芸術祭との連携が何回かあったが、必ずしもお互いの会場を人が巡っていたわけではないと考えているので、できるだけ人の流れを作るような仕掛けを作っていきたいと思う。

例えば、先ほども申し上げたが、同じ日にイベントを開催して、午前中にこちらに参加した人が、午後は国際芸術祭のイベントに参加するというような、できるだけそうした形の協力ができればと検討しているところである。

委員 NHKのさいたま放送局でも、取り上げたいと考えている。

## ウ 博物館評価について

事務局から会議資料を使用して、令和4年度の評価について報告を行った。

### 【主な質疑応答】

委員 2ページの8番の満足度について、MOMASコレクションアンケートの満足度が95.1%で達成としているが、これは高い結果だと思うが、いつもこのくらいの満足度なのか。

事務局 例年90%台となっている。今年度は特別に満足度が高いということではないが、95%を超える満足度をいただいている。

委員 今年度の展覧会と来年度の展覧会について、新型コロナウイルスの前と後では各館とも展示の仕方を変えざるを得なくて、コレクションを展示することがどうしても必要になってくると思うが、そういう意味でも未紹介の作品や作家の紹介、あるいは違う光を当てて紹介するとか、新しい作家と組んで見方を変えて作品を組みなおしていくという作業を積極的にされていて、素晴らしいと思う。

例えば、来年度の予定でも、こちらは椅子の美術館としても有名だが、今までの展示の仕方ではなく、違う角度からの展示というものを考えておいで、企画展のアブソリュート・チェアーズもあり、積極的に展示できるのではないかと考える。来年度も楽しみにしている。

## エ その他

委員 本日の報告とは違うが、昨日記者発表された内容で、文化庁が、日本のリサーチャー、アーカイブをリサーチすることが過少だということで、アートのアーカイブ事業に、ここ数年税金を出すなどの取り組みが行われています。

こちらの美術館でも素晴らしいコレクションがあつて40年間もの取り組み

があることを考えると、コレクションとアーカイブは別物だが、将来的に、10年先や20年先を見据えた取り組みというものをやってもいいのかなと思う。

これだけ素晴らしく良い展覧会を開催されていて、しかもさいたま市の浦和というのは、首都圏の中でも重要な位置にあるということもあるので、そういう取り組みができれば良いと思う。

館長 展覧会に来てもらいたいということで、アピールや宣伝をしているが、アーカイブに関連し積極的に取り組んできたことでいえば、例えば、DECOD展（令和元年度）を多摩美術大学との連携で開催した。（多摩美術大学と共同し、文化庁からの3年間の補助金交付により実施。）

アーカイブへの取り組みは、色々なところで行っていて、例えば大阪の中之島美術館もそうした取り組みを行っている。

まだ国の方でも体制が決まっていはいないようだが、我々も注目しているところである。それと同時に、アーカイブを文化庁が音頭を取って作ろうという流れもある。一つは国立国会図書館を中心としたジャパンサーチ、これはジャンルを問わずアーカイブにするというもので、もう一つは、国立美術館を中心にアート作品を集めた形で作品共通のアーカイブを作ろうという動きがある。そうしたアーカイブが国内にあると、実物を借りられなくても見ることができるようになる。

美術館でも画像をオンラインで公開できたらということで、著作権との絡みで難しいが、著作権者の許可が取れたものに関しては公開しようということで、交渉して画質を落として公開している。

事務局 我々の美術館のホームページで収蔵品検索ができるようになっている。画像が見られるものは、著作権期間外のものに絞っている。近現代美術品を収集しているので、大半は著作権の期間内ではあるが、これに関して利便性を上げるためにできるだけ画像をサムネイル程度でも公開したほうが良いということで、来年度に向けて準備をしている。

方針としては、著作権者に意向確認をして、不可という方もおそらくいる

と思うが、公開してもよいと許可を得られたら、画像の公開することで、意向確認が済んだものから進めるよう、来年度以降考えている。

文化庁は、サムネイル程度なら一気に公開しても構わないという考え方でいるようだが、必ずしもそれが正しいわけではないようなので、我々としては著作権期間の範囲になる作品に関しては、著作権者の意向を確認しながら進めるように考えている。

委員 この場合は外部からのアクセスはだめかもしれないけれど、管理して館の端末や図書館で検索して画像が見られるということになるのか。

事務局 そうではなく、当館のホームページにアクセスすれば見ることができる。できるだけどういう作品があるのかということインターネットから見られるようにしたいと考えている。

委員 もう一つ、アーティストトークで話した内容を記録されていると思うが、それも音声で公開するのか。

事務局 理想的にはそうしたいが、文字起こしした後に作者への確認作業があったり、公開しないでほしいという要望があったりすると思うので、今後そういう方向も検討したいと思う。

委員 音声も立派なアーカイブになるので、進めていただきたいと思う。

委員 戸谷成雄展を拝見したが、音声ガイドがあってもいいと思う。タレントを使えというわけではなく、職員が吹き込むなどの簡単なものでもよい。

この美術館ではあまりやっていないようだが、今は、聞くということで鑑賞できることも一般的になってきた。国立美術館のようではなくても、特に1階のコレクション展示（常設展）のところで奥原晴湖の解説が流れてくるといいなと思った。

事務局 確かに、音声ガイドは自動音声などできるような時代になってきているので、そうしたツールも今後検討したいと思う。

委員 来年度の埼玉りそな銀行の開行20周年に合わせたイベントについて、こうしたコラボの仕方もあるのだという点で非常に参考になった。地域貢献を主にしていくという機運になっているので、子供向けの事業や学校の活動など、そういった部分で何かしらのコラボをさせていただき、協力できればと考えている。未来応援プロジェクトなどいろいろな取り組みをしているが、なかなか浸透しない。アピール下手というところもあるが、それでも引き続き来年度も力を入れていきたいと思っているので、何かしら協力できることがあれば協力していきたいと思う。

委員 ワークショップで協力させていただいており、美術館に応募してくださる団体・学校と作家との関係が、市の教育委員会のワークショップと全く違うように感じている。美術館のアプローチがすごく良い形となって何年間か続いているように思う。美術館は、能動的に学校サイドにアプローチして調和してくれるという点で、違いがあると感じた数年間だった。

事務局 委員にはミュージアムキャラバンなどでお世話になっており、学校に行ってワークショップを行っていただいている。かつては美術館でも成果物の展示をしていたが、美術館が持っている現場感覚と学校の現場感覚が上手にながるということが大切ではないかと考えている。

委員 わかる範囲で結構だが、今年度、さいたま市が「アーツカウンシル」を設立することに関して、県の方で関係する連携や取り組みはあるか。

事務局 特に関係というか、直接的な取り組みはないが、さいたま市からアンケートが届いており、そのアンケートでは、美術館がどういう機能を持って活動しているのか、ということで1度聞き取り調査に来た。それ以外は特に把握していない。

(以上)

(議事録署名者)

会 長

---

委 員

---

委 員

---